



※学-Viva：「Viva」は、「生きる」という動詞から生まれた言葉です。三重の「学び場」が生き生きするイメージで名付けました。

新型コロナウイルス感染症に伴う様々な対応により、学校では、通常とは異なり、限られた授業時数の中で教育活動が進められています。大変な状況の中ですが、これまでも実施してきた児童生徒一人ひとりの学習内容の理解・定着状況の把握をもとに、補充のための授業、教育課程に位置付けない補習、家庭学習を適切に課す等、個に応じたきめ細かな指導につなげていくことが重要となってきます。

そのような中、GIGA スクール構想の加速により、「1人1台端末」の導入が早まり、緊急時においても、ICTの活用によりすべての児童生徒の学びを保障できる環境が整備されつつあります。4、5月の臨時休業中には、多くの市町等においてオンライン授業の取組がスタートしました。そこで、県教育委員会では、6月19日にWeb会議システム「Zoom」を使ったオンライン研修「第1回オンライン授業の進め方」を実施したところです。今後、8月から10月にかけて、「オンライン授業とICT活用に関する研修会」を下記の日程で実施します。児童生徒の学びの保障に向けて、オンライン授業のノウハウやICT機器を効果的に活かした授業づくりについて研修します。

●●ICTで学びの保障を●●

～オンライン授業とICT活用に関する研修会（Zoom）の予定～

●8/7（金）10:30～12:00 「第2回 オンライン授業の進め方」

講義 「Zoomを使ったオンライン授業の方法」

講師 三重県教育委員会事務局研修推進課 主任 伊川 昌弘

講義 「オンライン授業への取組（仮）」

講師 松阪市立飯高中学校 校長 森井 義和 教諭 川口 創平 教諭 野呂 貢一

内容 Web会議システムZoomを使ったオンライン授業の方法を、研修推進課職員の解説と県内中学校の実践から学ぶ講座。

●9/18（金）15:30～16:30

講義 「ここから始めよう！1人1台端末の協働学習」

講師 松阪市教育委員会指導主事 楠本 誠

内容 1人1台端末を活用した協働学習の実践から学ぶ講座。

●9/25（金）15:30～16:30

講義「オンライン授業のノウハウを対面授業に活かす ～臨時休業後の熊本市の実践より～（仮）」

講師 熊本大学大学院教育学研究科 准教授 前田 康裕

内容 オンライン授業で得たノウハウを活かし、対面授業でも積極的にICT機器を活用したハイブリット型授業の実践から学ぶ講座。

●10月（詳細については計画中）

内容 県内小学校の取組、ICTを活用した実践の交流

※上記は三重県総合教育センターWebページからお申込ください。

◆教員 ICT 活用指導力向上講習会（地域開催）◆

この研修は、市町等の要請に応じて、情報モラルの指導法、授業でのICT機器の効果的な活用、児童生徒が主体的にICTを活用する授業づくりについて実施します。

◎ 9月 津市、紀北町、尾鷲市

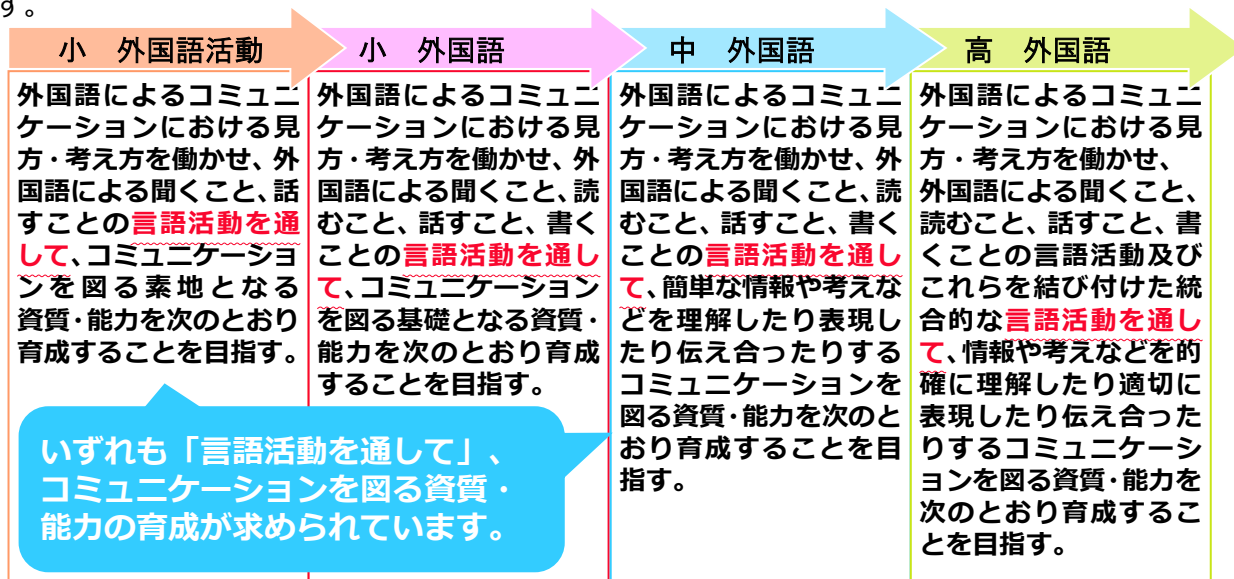
◎ 10月 伊賀市

（問い合わせ先） 県教育委員会事務局 研修推進課

※表中の「1・9で採点」は、「正答○・誤答×による採点」を表しています。

円滑な小中連携で外国語教育のさらなる充実を！

○小学校、中学校、高等学校の新学習指導要領では、外国語教育において次のような目標が定められています。



○小中連携で大切にしたいことを紹介します。

●児童生徒の学習の様子、学習内容を知ろう！●

- ・小中連携を進めるためには、授業参観等の機会をもち、実際に児童生徒の発話を聞いたり、その後の研究協議等にも参加して情報交換したりする等、小学校、中学校それぞれでどのような学習が展開されているのか、小学校の学習が中学校でどのようにつながっているのか知ることが大切です。
- ・「書くこと」においては、小学校では主に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基礎的な表現を「書き写す」「例文を参考に書く」ことが目標であり、中学校における「書くこと」（簡単な語句や文を用いて「正確に書く」、「まとまりのある文章を書く」等）とは求められていることが異なります。このように、それぞれの段階での5領域の目標を理解し、指導に生かしましょう。



●指導方法でつながろう！●

小学校でも、中学校でも、新たな言語材料の導入の場面では、目的や場面、状況を設定し、児童生徒が意味や使い方を捉えられるようにしましょう。

●言語活動でつながろう！●

言語活動については、小学校、中学校を通して、誰かになりきったり、役を演じたりするのではなく、児童生徒が自分自身に関する本当の出来事や気持ちを扱うことが大切です。そのような言語活動を積み重ねていくことで、それまで表現できなかったことを伝えることができる等、内容が充実していきます。

小学校は、扱っている言語材料、教材、活動内容や子どもたちの成果物などを中学校へ伝え、中学校は、それらを把握して、授業に活用していく等、言語活動における小学校、中学校のつながりを大切にしましょう。



子どもたちの未来のために「確かな学力」の育成を

市町教育支援・人事監 神森 正樹

●●● 生徒の言葉から学んだこと ●●●

三重県教育委員会事務局市町教育支援に勤めさせていただくことになり、本年度で3年目になりますが、それ以前は、中学校で30年間勤務させていただいてきました。前任の中学校でも何年か3年生を担当させていただきました。7月、8月という時期は、生徒が、初めて部活動のない夏休みに突入し…受験勉強をしなければと思いつつも気が付けば夏も終わり…2学期のスタート…。その頃になると、生徒が必ず口にする言葉がありました。『先生、もっと勉強しとけば良かった。』それに対し、「まだまだこれからや。死んだらあかんけど、死ぬ気でがんばれ!」そんな言葉を返してきました。死ぬ気で頑張って、進路の希望を見事実現させた生徒もいましたが、時間的に間に合わず、進路の希望を変更せざるを得なくなった生徒もいました。

9年間の義務教育の最終となる中学3年生。生まれて初めて経験する進路選択、進路決定の学年です。『先生、もっと勉強しとけば良かった。』その時になって改めて学習の意味や大切さに気付く、それを実感した、生徒たちの本音から出た言葉だったと思います。と、同時に、学習の意味や大切さをもっと早く気付かせてやれなかった、教師としての重い責任を感じる言葉でもありました。



●●● 私たちの役割は ●●●

令和2年3月策定の「三重県教育ビジョン」の基本施策1には、「子どもの未来の礎となる『確かな学力・豊かな心・健やかな身体』の育成」という言葉が示されています。「確かな学力」は子どもの「未来を切り開く力」になり、そして「学力の向上」は、「その未来の幅を広げる力」となると考えます。市町教育支援の人事を担当する立場としては、「確かな学力」の育成のための適切な人員の配置等に努めることはもちろんですが、例えば、「学校における働き方改革」推進の取組から生まれる授業改善や子どもたちと向き合う時間の確保等、子どもたちの豊かな未来につながる様々な取組において県と市町をしっかりとつなぐことで、「確かな学力」の育成や「学力の向上」をサポートしていきたいと考えています。

